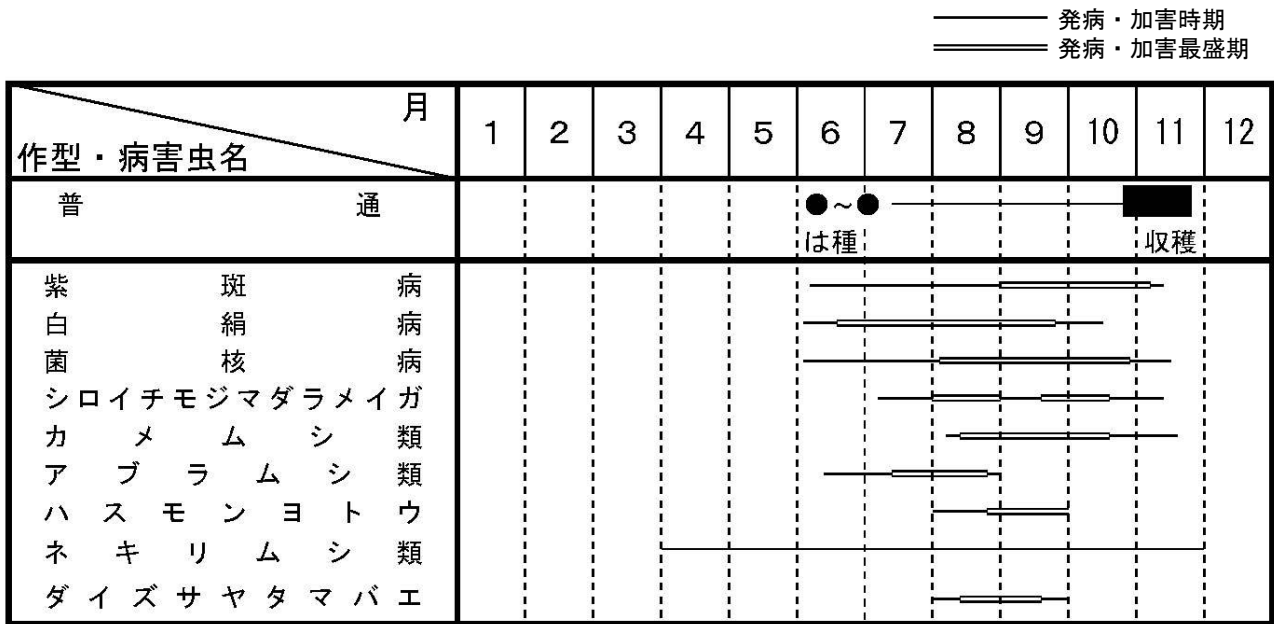


VII 豆類（種実）の病害虫防除

だいず

農薬取締法上、「だいず」と「えだまめ」は別の作物である。

「だいず」は「だいず」か「豆類（種実）」または「野菜類」に適用のある農薬を使用し、「えだまめ」は「えだまめ」か「豆類（未成熟）」または「野菜類」に適用のある農薬を使用すること。



紫斑病

留意事項

- 1 糸状菌による種子伝染性病害であり、罹病種子や被害茎葉で越冬する。
- 2 葉、茎、莢、子実が侵され、褐色～濃紫色の病斑を生じる。
- 3 結実期に冷涼多雨の年に多発する。
- 4 開花期～成熟期、特に収穫期前の降雨が子実の発病を助長する。
- 5 トップジンM水和剤、アミスター20フロアブルは耐性菌が出現しやすいので1シーズン1回までの使用に限る。

防除方法

- 1 種子は無病のものを用いる。
- 2 耐病性品種（サチユタカ、タマホマレなど）を用いる。
- 3 発芽直後に苗立枯症状を起こし、その後、茎葉や莢が発病し、莢から子実へ侵入し、紫色の病斑が発生する。
- 4 収穫適期を過ぎると莢から子実への紫斑病菌の感染が増加する。
- 5 被害茎葉は放置せずに集めて、ほ場外に持ち出し処分する。
- 6 連作を避ける。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 7 下記のいずれかの薬剤で種子消毒する。
- ・ [クルーザーMAXX](#) 1 2 4 (殺虫成分) 4 A
 【乾燥種子1kg当り原液8ml 塗沫処理 は種前／1回】
 - ・ [ベンレートT水和剤20](#) M 3 1
 【乾燥種子重量の0.2～0.4% 種子粉衣 は種前／1回】
- 8 若莢期～子実肥大中期に下記の薬剤を散布する。
- ・ [トップジンM水和剤](#) 1 【700～1,500倍 14日／4回】
 - ・ [アミスター20フロアブル](#) 1 1 【2,000～3,000倍 7日／2回】
 - ・ [プランダム乳剤25](#) 3 【3,000～5,000倍 開花後～7日／2回】

白絹病

留意事項

- 1 土壌伝染性病害であり、だいずの他、なす科、うり科などの作物にも感染・発病する。
- 2 地際部または地下部、皮層部が軟化し、先端部の本葉が黄化してしおれる。発病が進むと立ち枯れ症状になる。
- 3 高温多湿条件で多発する。
- 4 リゾレックス水和剤はアルカリ性剤（石灰硫黄合剤、ボルドー液等）との混用を避ける。

防除方法

- 1 発病地では連作を避け、排水を良くし過湿を避ける。
- 2 土壌pH6以上で病原菌の増殖が抑制されるので、は種前に石灰80～120kg／10aを施用する。
- 3 常発ほ場では、は種前に土壌消毒をする。
- 4 発病を認めたら下記の薬剤を土壌かん注する。
 - ・ [リゾレックス水和剤](#) 1 4 【1,000倍 3L／m² 14日／3回】

菌核病

留意事項

- 1 スミレックス水和剤はアルカリ性剤（石灰硫黄合剤、ボルドー液等）との混用を避ける。

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [スミレックス水和剤](#) 2 【1,000～2,000倍 21日／4回】
 - ・ [トップジンM水和剤](#) 1 【700～1,000倍 14日／4回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

ウイルス病

留意事項

- 1 大豆モザイク病、萎縮病、わい化病、モザイク病などの総称。
- 2 種子伝染や虫媒伝染する。
- 3 罹病すると治療は困難なので、予防防除に努める。

防除方法

- 1 種子は無病のものを用いる。
- 2 アブラムシ類が健全株にウイルスを伝播していくので、後述のアブラムシ類の項を参照し、媒介するアブラムシ類の防除に努める。
- 3 発病株は早期に抜き取る。
- 4 ほ場周辺のクローバ類等を介して感染が拡がるので、伝染源の雑草を除去する。

シロイチモジマダラメイガ

留意事項

- 1 シロイチモジマダラメイガは、年3～4回発生し、幼虫が未熟粒を食害する。
- 2 食入した幼虫に対しては、有効な防除法がないので食入防止に重点を置く。

防除方法

- 1 晩生品種ほど被害が少なく、遅まきすることも被害を少なくするのに効果がある。
- 2 幼虫の食入の多い子実肥大初中期に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [トレボン乳剤](#) 3 A 【1,000倍 14日／2回】
 - ・ [エルサン乳剤](#) 劇 1 B 【1,500～2,000倍 7日／2回】

カメムシ類

留意事項

- 1 吸実性カメムシ類（ホソヘリカメムシ、イチモンジカメムシ、アオクサカメムシなど）は1頭が多数の莢を加害するので初期防除を徹底する。
- 2 マルカメムシは茎や葉柄の吸汁加害のみで、子実は給汁せず実害は少ない。

防除方法

- 1 下記の薬剤を幼莢期から散布する。
 - ・ [トレボン乳剤](#) 3 A 【1,000倍 14日／2回】
 - ・ [スタークル顆粒水溶剤](#)、[アルバリン顆粒水溶剤](#) 4 A 【2,000倍 7日／2回】
 - ・ [カスケード乳剤](#) 1 5 【4,000倍 7日／2回】
 - ・ [スミチオン乳剤](#) 1 B 【1,000倍 21日／4回】
 - ・ [エルサン乳剤](#) 劇 1 B 【1,000倍 7日／2回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

アブラムシ類

留意事項

- 1 主にダイズアブラムシとジャガイモヒゲナガアブラムシが寄生する。
- 2 吸汁害だけでなくウイルス病を媒介することがある。
- 3 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 下記の薬剤を散布する。
 - ・ [トレボン乳剤](#) 3 A 【1,000倍 14日／2回】
 - ・ [ダントツ水溶剤](#) 4 A 【2,000～4,000倍 7日／3回】
 - ・ [ウララDF](#) 2 9 【2,000～4,000倍 7日／2回】
 - ・ [エルサン乳剤](#) 劇 1 B 【1,000～2,000倍 7日／2回】

ハスモンヨトウ

留意事項

- 1 老齢幼虫には薬剤の効果が劣るので、若齢幼虫期に防除する。
- 2 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 下記の薬剤を若齢幼虫期に散布する。
 - ・ [トレボン乳剤](#) 3 A 【1,000倍 14日／2回】
 - ・ [ベネビア0D](#) 2 8 【2,000～4,000倍 7日／3回】
 - ・ [ゼンターリ顆粒水和剤](#) 1 1 A
【豆類(種実) 1,000倍 発生初期ただし収穫前日／—】
 - ・ [トルネードエースDF](#) 2 2 A 【2,000倍 7日／2回】
 - ・ [プレバソンフロアブル5](#) 2 8 【4,000倍 7日／2回】

ネキリムシ類

留意事項

- 1 カブラヤガ、タマナヤガの幼虫をネキリムシ類と呼んでいる。

防除方法

- 1 下記の薬剤を施用する。
 - ・ [カルホス粉剤](#) 1 B
【4～6kg／10a 作条施用土壌混和 は種時または定植時／2回
または 4kg／10a 土壌表面散布 は種時～本葉2葉期／2回】
 - ・ [フェニックスフロアブル](#) 2 8 【4,000倍 7日／3回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

-
- ・ [アクセルベイト](#) 2 2 B 【3～6kg／10a 株元散布 前日／3回】

ダイズサヤタマバエ

留意事項

- 1 被害莢は一部がふくれて虫こぶとなり、子実が食害されて減収となる。

防除方法

- 1 開花期から幼莢期に飛来し産卵するので、下記薬剤を幼莢期から散布する。

- ・ [スミチオン乳剤](#) 1 B 【1,000倍 21日／4回】
- ・ [トレボン乳剤](#) 3 A 【1,000倍 14日／2回】
- ・ [ダイアジノン粒剤5](#) 1 B 【4～6kg／10a 30日／4回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。